

## 【一関地球温暖化対策地域協議会取材報告】

脱炭素コンテスト in 一関～発表会&セミナー～

令和2年2月2日（日）13：30～16：30

場所：一関市民センター3階菜の花プラザ

反省会：一関図書館1階カフェ 17：00～18：00

「脱炭素コンテスト in 一関」発表会&セミナー

I：発表会

II：セミナー「今、なぜ脱炭素なのか」

III：表彰式

### ◎脱炭素コンテスト概要

代理発表も含め11名の方々が発表を行った。発表5分質疑2分と決められた中で5分以内では思いが伝えられず時間をオーバーする方、早めに終了する方など様々でしたが、最終的には定刻通りに発表、質疑を終えることができました。

印象的だったのは震災がきっかけとなりエネルギーの大切さを考えるようになった家庭が多かったこと。地域性なのか薪ストーブ利活用の家庭が多かったこと。それに加えて薪を確保するスペースやビニールハウス設置場所が確保できるほど敷地が広いことでした。

また太陽光発電では屋根の上ではなく野立方式といった地面に設置するものも多く、このことから各家庭の敷地面積が広いことがわかります。課題は売電が終了時にどうするのかといった問題点もありました。

家庭での脱炭素度合いと各々の家庭で工夫されているポイント等PP映像を交えながら発表されましたがそれぞれ楽しみながら行っている印象でご夫婦仲が良いこともエコな取り組みが持続できる秘訣のようです。

審査委員の方々が別室で審査を行っている間、認定NPO法人環境文明21顧問 加藤三郎氏のセミナーが行われました。

各家庭での脱炭素度合いと5分間スピーチを基に審査が行われた審査結果は以下の通りです。

◎グランプリ：佐々木 幸さん

○特別賞：村岡 諭さん

・他の皆様：奨励賞



## ◎加藤三郎氏セミナー概要

「今、なぜ脱炭素なのか」

全ては 1988 年の IPCC の活動から始まった。1990 年には断定ではなく慎重であったが 2013 年に発表された AR5 では「温暖化は疑う余地がない」人間の影響の可能性が極めて高い。国際社会の取り組み、パリ協定の中味と意義、最近の重要レポート 2018 年 10 月発表の特別レポート。脱炭素化の必然性についても触れられた。

1.5℃の世界はどういう世界なの？1.5℃と 2℃の違いを明らかにしてほしい。ということで特別レポートにまとめた経緯がある。1.5℃に抑えるためには①すべての部門での排出量の削減、②大気中からの CO<sub>2</sub> を除去することも含めた様々な技術の採用。人工的な対応が必要となってくる。③行動様式の変化、④低炭素オプションへの投資（電気自動車、ソーラーパネルなど海の吸収、森林吸収で排出するものと吸収するもので 0 にする考え方（カーボンオフセット）IPCC の「気候変動と土地リポート 2019 年 8 月」では気候の異変は食料の安全保障及び陸地域の生態系に悪影響をあたえ砂漠化と土地劣化に寄与し 2019 年、20 年 21 年は田舎を捨て都会へと人口は流出しているが今後食料が危なくなったら人口の流れが都会から田舎へと変わってしまうとも話されました。

スウェーデンの少女、グレタ・トゥンベリさんの発言についても紹介。

◎2018 年末の COP24 国連気候変動会議で各国代表団、企業や NGO の団体に向けたスピーチ

◆「あなた方は、自分の子供たちを何よりも愛していると言いながら、その目の前で子どもたちの未来を奪っています。」

◆「あなた方大人は嫌われることを恐れるあまり、環境に優しい経済成長が永久的に続くかのようなことを言います。良識的対応は非常ブレーキをかける事だけだという時になってもあなた方は現在の混乱を引き起こしたのと同じ考えのまま進んでいくことしか語りません。」

◎2019 年 1 月の世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議でのスピーチ）

◆「大人は次の世代に希望を、といます。希望など必要ありません。必要なのは、大人たちが現状に対する危機感を高めて、行動する事です。目の前で火事がおきていたら、すぐ行動をとるように、今すぐ行動してもらいたい。地球は今、火事で燃えている状況にあるのです」

◎2019 年 9 月の国連気候行動サミットでのスピーチ

◆「あなた方は空っぽの言葉で私の夢や子供時代を奪ったのです。でも私はまだ幸運な方です。たくさんの方が苦しんで、死にそうになっています。生態系全体も崩壊しつつあります。私たちは大量絶滅の入り口にいるのです。そんな時でもあなた方はお金の事や経済成長が」永遠に続くかのようなおとぎ話しかしていません。よくそんなことが言えますね。」

◎日本の対応の遅れ

日本は 1990～2010 年頃までは地球環境問題に対してそれなりに頑張りリーダー国の一つとして見做されてきた。しかし東日本大震災を機に震災と原発事故対応に政治も社会も人々も力を注がざるを得なくなり、地球環境問題（特に気候変動と生物多様性）への対応がおざなりになった。2012 年第二次安倍内閣が組織されて以降経済成長優先政策の陰に置かれまともな気候変

動対策は今日まで取られていない。

1.5℃上昇におさめる世界のため、ダボスでのグレタの要求、日本の気候科学不信記事についての紹介もあった。

・必要なのは低炭素経済、低めの排出やネット・ゼロではなく「真のゼロ」だという事。大人のあなた方が行動しないことは、時々刻々として火に油を注いでいることになる。私たちはあなた方が、あたかもほかの何よりも子供たちを愛しているように行動すべきとっているのだ。



#### 【取材後記】

コンテスト参加者が11名。この方たちをさがすことは大変な作業ではなかったのかと協議会の皆様の尽力に頭が下がる思いでした。情報を得、訪問、聞き取りと大変な労力かと思いますが、発表された方々の取り組みを共有する機会、有意義な時間となりました。何よりも発表者の皆様が楽しみながら行っていること、今後さらに脱炭素に向けて取り組めることはないか前向きに改善点をみつけているところが素晴らしいと感じました。

今回の一関市地球温暖化対策地域協議会の取り組みが他の地域でも行われ、違った方法の脱炭素を知る機会となればと今後の広がりを期待したいと考えます。

コンテスト終了後、場所を移動しての懇親会・反省会も心温まるものでした。全体の企画を行った会長、副会長をはじめ、事務局長の佐々木勝裕氏、協議会員皆様のまとまりが一関市の活動を活発にしているのだと心より感謝申し上げます。